

令和元年5月27日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17257

研究課題名(和文) 集団規範の継承過程に関する心理学的研究

研究課題名(英文) Psychological studies of the process of group norm succession

研究代表者

尾関 美喜(Ozeki, Miki)

岡山大学・社会文化科学研究科・講師

研究者番号：30574735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、集団規範の継承過程を明らかにするために、大学祭の規約改変を行なった大学祭実行委員会の議事録を用いて、議論の過程を検討した。この結果、これまでの規範に対する疑問が集団規範を変える契機になることが示された。

また、個々の集団成員に、集団規範の継承に関する動機づけが存在すると考え、どのような内容からこうした動機が構成されているのかを明らかにした。この結果、次世代に対する責任、集団規範を継承することへの義務感、集団の現在の在り様を維持したいという動機、集団の在り様を自分たちの世代で決定したいという動機の4側面があることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の重要な意義として、集団規範継承動機に4つの側面があることが見出されたことがあげられる。発達心理学において研究されてきた世代継承性と照らし合わせて考えると、世代継承性の、「有形無形を問わず、自分たちの世代のもつ望ましいものはそのまま次世代に継承し、望ましくないものは自分たちの世代で継承を止めたい」とする面が、集団規範に適用されたものが集団規範継承動機であると考えられる。

このことから、集団規範継承動機は、集団の中で望ましくない規範が次世代に継承されるのをとどめる役割を果たすと考えられる。そこで今後の研究では、集団規範継承動機を高める要因の検討を行なっていく必要があるだろう。

研究成果の概要(英文)：In this study, in order to clarify the inheritance process of the group norms, we examined the process of discussion using the meeting minutes of the university festival executive committee, which changed the regulations of the university festival. The result showed that questions about the past norms was a trigger to change the group norms.

In the second study, I considered that there was a motivation for the succession of group norms to each group member, and clarified what kind of content these motivations consist of. The result showed that there are four aspects: responsibility for the next generation, a sense of duty to pass down the group norms, a motivation to maintain what the group was, and a motivation to determine everything about the group in their generation.

研究分野：社会心理学

キーワード：集団規範

1. 研究開始当初の背景

集団規範は、集団成員の行動や判断の基準であり、集団の維持運営に必須である(Forsyth, 2010)。集団規範は、所与の安定的な物として研究上は扱われることが多く(Cialdini & Trost, 1998; 尾関, 2009; 尾関・吉田, 2005)、長期的な維持が望まれる(Forsyth, 2010)。それにもかかわらず、申請者の研究(尾関・吉田, 2012)において、実際には集団成員が自ら集団規範に意図的な変更を加えることが示唆された。つまり、集団規範が次世代に全てそのまま継承されるには限らない。この問題を受け、本研究は、集団規範を確実に次世代に継承する方策を見出すために、集団規範が次世代に継承されるメカニズムの解明をめざす。

集団規範の維持継承について、これまで社会心理学では、新規参加者が集団規範を学習し内面化することで集団規範が維持継承されるという、継承の受け手側からの説明が主だった。しかし、尾関・吉田(2012)でみられたような、成員が意図的に変更を加えるという場合、つまり集団規範が形を変えて継承される場合も想定すると、従来の継承の受け手側からの説明だけでは説明できない部分が生じる。そこで、集団規範の継承については伝承者側からの検討も必要になる。

伝承者にも焦点を当てた山田(2012)では、そのまま継承、形を変えて継承、非継承の3つの継承形態とそれらの7つの下位形態が見出されたが、継承形態の違いが生じるメカニズムについて十分に明らかにされたわけではない。

そこでまず本研究では、集団規範の伝承者側から、1)集団レベルの継承における、集団規範の内容に応じた継承形態の違い 2)伝承者の心理的要因による継承形態の違いを検討する。その成果は、集団規範が次世代に継承されるメカニズムに、新たな角度から説明を加えることができるだろう。

2. 研究の目的

本研究は2014年に次年度に向けた大学祭運営規約の改変を行った大学祭運営組織を対象に、1)集団レベルの継承における、集団規範の内容に応じた継承形態の違い、2)個々の集団成員の継承動機や心理的特性が、集団規範の内容に応じた継承形態の選好の違いに及ぼす影響を検討する。

研究1:「集団レベルにおける集団規範の継承過程」

大学祭運営規約文書と規約改変会議の議事録をもとに、集団レベルの集団規範の継承において、集団規範の内容に応じて、そのまま継承、形を変えて継承、非継承の3つの継承形態(山田, 2012)のみられやすさに違いがあるのかを検討する。

研究2:個人レベルでの検討1 「個々の集団成員の継承動機が継承形態の選好に及ぼす影響」

財産相続の研究では、人が次世代に財を残す動機には、愛他的動機、集団に今あるものを次世代に受け継ぎたいという保存動機、将来の集団成員の価値観をコントロールしたいという利己的動機が存在が示された(Sousa et al., 2010)。その知見を本研究では集団規範に援用し、これらの3つの動機が、集団規範の内容に応じた継承形態の選好の違いに及ぼす影響を検討する。

3. 研究の方法

研究1: 集団レベルにおける集団規範の継承過程

2002~2004年、2012~2014年の、全体の運営規約と複数の下位組織の個別運営マニュアルをそれぞれ対象に内容分析を行い、抽出された発言内容カテゴリ間の関連をモデル化することで、集団規範が変化する過程の議論の構造を整理した。

研究2

部活動・サークル集団に所属する大学2~4年生男女を対象に、3つの集団規範の継承動機(愛他的動機、保存動機、利己的動機)を測定するための尺度項目を、Sousa et al.(2010)をもとに作成した。

4. 研究成果

本研究では、集団規範の継承過程を明らかにするために、大学祭の規約改変を行なった大学祭実行委員会の議事録を用いて、議論の過程を検討した。この結果、これまでの規範に対する疑問が集団規範を変える契機になることが示された。

また、個々の集団成員に、集団規範の継承に関する動機づけが存在すると考え、どのような内容からこうした動機が構成されているのかを明らかにした。この結果、次世代に対する責任、集団規範を継承することへの義務感、集団の現在の在り様を維持したいという動機、集団の在り様を自分たちの世代で決定したいという動機の4側面があることが示された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 1件)

Ozeki, M. (2019). Change Processes of Group Norms with Generational Change in a Small

〔学会発表〕(計 11件)

国際学会発表

1. Ozeki, M., & Travaglino, G. (2018). What develop group norm inheritance motivation? : From the perspective of individualism/collectivism (1) International Congress of Applied Psychology, Montreal, Canada.
2. Ozeki, M. (2017). What makes people motivate to succeed group norm to the next generation? : Development of group-norm succession motivation scale. 18th European Association of Social Psychology General Meeting, Granada, Spain.
3. Ozeki, M. (2016). The process of group-norm revision: A qualitative study targeting minutes of meetings. 31th International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

国内学会発表

1. 尾関美喜・Giovanni Travaglino (2018). 集団主義・個人主義が集団規範継承動機に及ぼす影響(2)日英の比較調査から日本社会心理学会第 59 回大会
2. 尾関美喜 (2017). 死の脅威に直面すると、集団規範継承動機は高まるか? (1): 集団アイデンティティによる検討 日本社会心理学会第 58 回大会
3. 尾関美喜 (2017). 集団規範継承動機が集団規範の継承意図に及ぼす影響 革新指向性との交互作用に着目して 日本グループ・ダイナミクス学会第 64 回大会
4. 尾関美喜 (2016). 集団規範継承動機尺度の作成(1) 日本グループ・ダイナミクス学会第 63 回大会
5. 尾関美喜 (2016). 小集団における集団規範の変容過程 大学祭運営規約改編会議の議事録を対象として 日本社会心理学会第 57 回大会
6. 尾関美喜 (2015). 集団規範が変わるとき 大学祭運営組織の規約改変議事録を対象として 日本社会心理学会第 56 回大会

国内講演

1. 尾関美喜 (2018). 集団規範継承動機を高めるものとは? 文化的自己観と集団アイデンティティによる検討 2018 年度第 1 回東京国際大学人文・社会系ファカルティセミナー
2. 尾関美喜 (2017). 集団規範の継承メカニズム: なぜ人は次世代にルールを引き継ごうとするのか? 東京農工大 MOT 部会

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 なし

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：Giovanni Travaglino

ローマ字氏名：Giovanni Travaglino

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。